



公益財団法人
小笠原敏晶記念財団

財団の概要

設立：1986年9月12日
代表者：理事長 小笠原 三四郎
行政庁：内閣府
基金：437.5億円

●財団の目的

この法人は、自然科学・技術分野および文化・芸術等人文社会科学分野への助成、支援、顕彰等並びに国内外の人的交流促進等を図り、もって創造的で豊かな社会生活の実現に寄与することを目的とする。（定款 第3条）

●理念

私たちは、科学技術の更なる深耕を図りつつ、文化芸術分野まで活動領域を広げることで、世の中に新しい価値を生み出せる人たちを応援します。リスクを恐れず、常識を打ち破り、社会に人間らしい豊かさをもたらすこと。そこに使命を見出し、意欲を注ごうとする創造的なチャレンジャーたちを支援することで、イノベーション創出の一助となることを願います。

●スローガン

私たち、小笠原敏晶記念財団では、設立者 小笠原敏晶の理念を継承し、次のスローガンのもと助成活動を推進していきます。

常識に挑む、熱き才能に寄り添う

●設立の経緯

公益財団法人 小笠原敏晶記念財団の設立者である小笠原敏晶は、1967年に株式会社ニフコを設立以来、エンジニアリング・プラスチックを中核にユニークなプラスチックファスナーの開発とその供給に努めてまいりました。そして、社会的ニーズを満たす、より高度な品質・機能・価格を実現する製品の供給を続けるには、関連する科学技術の進歩発展が必要不可欠であることを実業を通して痛感しました。「社会にイノベーションを起こすような科学技術の発展を支援したい」。その思いから、1986年9月、財団法人 小笠原科学技術振興財団は誕生しました。

2020年からは「公益財団法人 小笠原敏晶記念財団」に改称し、科学技術の分野に加え、さらに文化・芸術分野まで助成事業を拡充しました。この文化・芸術分野への支援により心豊かな社会の実現の一助となることを期待しています。熱きチャレンジャーへの助成や多彩な才能との相互交流を通じて、健全で豊かな社会づくりへの貢献を目指しています。

●事業内容

科学技術助成

科学技術助成では、わが国の産業の発達に寄与することを目的として、理学・工学等の領域において健全な発展の一助となる助成活動を1986年より行っています。

■研究助成

1. 一般研究助成

高分子分野における、新素材・加工技術・新機能・評価分析に関する研究開発等に対して助成する制度です。

2. インキュベンチャー助成

日本の成長戦略につながるような「大義ある熱い志」をもった起業家の皆様を助成支援する制度です。

3. 特定課題研究助成(非公募)

主に自然・社会科学の分野を対象とし、財団内で設定するあるいは学識経験者等の推薦による特定課題に対して行う助成制度です。

■交流助成

1. 国際出張助成

研究発表のために国際研究集会へ参加する海外渡航費の一部を助成する制度です。

2. 国際会議開催助成

日本国内で開催する国際研究集会の開催費の一部を助成する制度です。

文化・芸術助成

文化・芸術助成では、多様な創造力の根源となる文化・芸術の領域を支援しています。クリエイティブなチャレンジャーへの助成や多彩な才能との交流を通じて、健全で豊かな社会づくりへの貢献を目指しています。

■新型コロナウイルス特別助成

1. 新型コロナウイルス特別助成(現代美術分野)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現代美術分野における活動やプロジェクトに被害を受け、かつ、将来にわたって活動を継続するために支援を必要とする方を対象に、継続の一助となる資金を助成する制度です。

■文化・芸術の担い手への助成

1. 調査・研究等への助成(現代美術分野)

日本の現代美術分野における「調査・研究」の担い手に対して助成する制度です。

2. 交流助成

会議の開催費用の一部を助成する制度です。

3. 渡航・旅費等の助成

国外の会議等への参加、あるいは日本国外で開催される展覧会業務等のための渡航・旅費等の助成制度です。

■日本の文化・芸術普及のための助成

1. 現代美術の翻訳助成

日本の現代美術に関する資料、アーティストファイル等の良質な英語翻訳を支援し、日本の現代美術の現状と多様性を広く海外へ紹介・周知することを目的とした助成制度です。

2. 特定課題助成(非公募)

文化・芸術の分野を対象とし、財団内で設定するあるいは学識経験者等の推薦による特定課題に対して行う助成制度です。